

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 学校教育学系 准教授

氏 名 辻野 けんま

研究期間 平成28年度～平成29年度

研究プロジェクトの名称	大学における教育経営職育成の国際共同開発
研究プロジェクトの概要	<p>本研究プロジェクトは、教育経営職の育成に大学が果たす役割を具体化することを目的とする。一国内のパラダイムを克服しグローバルな視座からアプローチすることを意図し、海外の研究者らとの国際共同開発を重視した。海外の主たる協力先は、「教育経営」の在り様を独自に模索しているドイツのルードヴィクスブルク教育大学とした。あわせて、2018年開催を予定している国際教師教育学会(ISfTE)日本大会の準備を最大限活用し、諸外国の知見を取り入れるとともに、日本からの発信による双方向的な交流を推進した。教育経営職育成は国際的にも大きなテーマとなりつつあり、大学の関わりは共通した重要課題となっているが、各国においてドメスティックな議論にとどまりがちでもある。この点の克服を目指すとともに、本学の経験をふまえ今後生きる研究を目指した。</p>
研究成果の概要	<p>本研究プロジェクトを通じて、日本における先行研究や先行実践の知見をふまえ、また本学における経験を振り返りながら、ドイツの例から照射される日本的なパラダイムを析出した。その結果、以下3点が明らかになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 日本の教職大学院政策の制度的課題（政策レベルの課題） ② 教職大学院での教育課程構築上の課題（運用レベルの課題） ③ 大学における教育経営職育成の可能性（試案的提言） <p>目下、日本で政策的に推進されている教職大学院政策の制度上の課題は、大学レベルで教育課程を構築する際に障壁ともなっている。そこで、①では関係者に基礎資料を広く提供することを図った。他方、制度的課題がそのまま教育課程構築上の課題になるとも言いきれない側面があるため、大学にとっての課題として②を概括した。最後に、具体的な提言として、③上越教育大学における構想および試行を概括した。各大学がそれぞれの特色を生かした教育課程を構築できるよう、上越の例を試案的提言とした。</p>
研究成果の発表状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 辻野けんま(2018)『大学における教育経営職育成の国際共同開発』（平成28～29年度上越教育大学研究プロジェクト報告書） ・ Hiroki SUEMATSU & Kemma Tsujino, Finding Alternatives and/or Following Global Trends for School Leaders?: Reflection of Educational Management in Japan, 37th Annual International Seminar for ISfTE in Denmark, 24-28 April 2017.
学校現場や授業への研究成果の還元について	<p>今後の大学（とくに教職大学院）における教育経営職育成のための教育課程開発や体制構築への一助となるよう研究成果報告書を公開する。あわせて、この分野における本学の国際性強化につなげるべく、国際教師教育学会(ISfTE)2018年大会準備にあわせた国際共同企画を進め、その知見を報告書に反映させた。</p>